

平成27年度 学校評価

江津市立江東中学校

評価期間：平成27年4月1日～12月31日

評価項目	領域	中期目標	短期目標	担当	具体的な取組	○評価の観点	教職評価	達成状況	改善策と今後の方針	学校評価委員	
										評価	
学習指導	確かな学力の育成	確かな学力の育成を図り、進路保障・学力保障の充実に努める	基礎的・基本的な学力育成の手だてを具体化する	研究	<ul style="list-style-type: none"> ・学力調査の結果から生徒につけたい学力の内容を明確にし、取組を設定する。 ・先進的な取組について研修し(夏休み中)、本校の取組を改善、実践する。 	○アクションプランにそった具体的な取組(授業改善)を行ったか。	B	・内容や生徒への定着の面では十分ではないが、具体的な取組を授業に組み込んで実践した。	・結果分析から明らかになった課題を意識し、具体的な取組を継続的に行う。	A	一生懸命に取り組んでもらっており、個々の学力の伸びが見られる。
						○研修会は本校の取組の改善に役立ったか。	C	・研修会は大変参考になったが、そこから職員全員で取組もうという機運に持って行けず、個々に任せる形になった。	・先進校の方策・取組等をどのように本校の実態に応じた取組に落とし込んでいくか共通理解が必要。	B	教職員の自己目標管理により、自覚を高めてほしい。
						○授業において課題・めあての確認と振り返りを行ったか。	B	・単元計画に組み込むことで、確実にめあてを示した授業を行った。振り返りは十分に行えないこともあった。	・授業開始時にめあてを提示することは、定着しつつあるが、生徒にとっての学習課題になっていない例も多く、「ねらい」の立て方を研修する必要がある。	A	継続して行ってほしい。
			授業における課題・めあての確認と振り返りの充実を図る	研究	<ul style="list-style-type: none"> ・校内研究授業、授業公開週間(毎月)などを通して、全教科で実施する。 ・一人1回研究授業、授業研究会を持ち、各自が工夫、改善を行う。 	○授業研究会は課題・めあての確認と振り返りの改善に有効だったか。	B	・研究協議が少なく、改善とまでは行かなかったが、めあてと振り返りの定着には有効であった。	・研究協議の時間を確保する。	A	
						○授業と関連する予習・復習を課題として与えたか。	B	・単元計画表に宿題を組み込むことで、確実に授業の復習は課題とすることが出来た。しかし、内容的にもっと活用的なものも取り上げる必要がある。	・授業評価からの改善(ACTION)を意識して進める。	A	
						○自主学习ノートの課題の内容・やり方を個別に指導したか。	A	・自学ノートのチェックの際に指導した。	・全体的に宿題の量が少ないので、課題を工夫し、予習学習に取り組ませる。	A	子どもと一緒に座って見てやるなど、保護者の姿勢も大切。勤務時間等、各家庭により、厳しい状況もある。
			家庭学習の充実を図る	研究	<ul style="list-style-type: none"> ・授業と関連を持たせた課題を出す。 ・課題の提出状況、自主学习ノートの内容について、掲示等も利用し指導する。 ・終礼時、家庭学習の計画を立てる。 	○自主学习ノートの課題の内容・やり方を個別に指導したか。	A	・未提出の生徒には、昼休みに100マス計算を行った。	・自学ノートの内容に深まりが見られない生徒には、課題を出す。	A	
						○終礼時に、家庭学習の計画を立てさせたか。	B	・自主学习のめあてをチェックすることは習慣化しているが、家庭学習内容の計画までは出来ていない。中にはあゆみに、内容、順序、チェックをしている生徒もいる。	・めあてとふりかえりを徹底させることで、学習意欲を高める。	A	
						○学期に1回以上基礎・基本の活用を図り言語活動を充実させたか。	A	・CAN-DOリストを活用して、単元の中心的な言語活動を設定した。	・習慣化した生徒のあゆみを他の生徒に紹介する。	A	得意分野は、生徒個々に違いがある。よって、基本を大切に定着させてほしい。
			表現力の育成を図る	研究	<ul style="list-style-type: none"> ・各教科で基礎・基本の活用を図る言語活動を充実させる。 ・夏季/冬季学習会において、表現力の育成を図る取組を行う。 ・体験学習後、感想を書かせる。 	○学習会において3時間以上、表現力の育成を図る取組を行ったか。	B	・夏に1回行ったが、冬の学習会では、できなかった。	・週末や長期休業を利用したレポート等を取り入れる。	B	生活に密着した題材をもとに楽しい授業をすることで子どもの意欲・関心を伸ばしてほしい。
						○校外研修への参加、また、自己研修を行ったか。	B	・校外研修には参加できない教員が多かったが、県教委の情報誌などを読み、自己研修を行った。	・「授業アイデアBOX」等を活用した授業を夏冬継続して行う。	A	
						○アクティブ・ラーニングの視点を入れた授業を行ったか。	C	・校外研修で学んだことも生かし、少しでも生徒主体という意識で臨むことが出来たが、課題解決型の授業は取り入れられなかった。	・教員間の個人差がある。全体での校内一斉研修を実施する。	A	
アクティブ・ラーニングの推進を図る	研究	<ul style="list-style-type: none"> ・アクティブ・ラーニングについて研修を行う。 ・校内研究授業でアクティブ・ラーニングの視点を取り入れた授業を実施する。 	○自己課題を持たせ、講師との交流を通して課題解決を図らせることができたか。	B	・講師の方の考え方や学校側と話し合いをする時間も限られており、自己課題化は、なかなか難しかった。	・新学習指導要領の理念を共通理解し、先進校視察・指導主事の招聘を図る。	B	生徒同士の教え合いによって、力をつけさせたり個性を伸ばしてほしい。			
			○キャリア講演会の開催	B	・講話だけでなく、全校ダンス指導を受けたことで、職業観を深めることができたか。	・事前のねらいについての打合せの時間を確保する。	A				
			○年3回実施し、ねらいを達成する事ができたか。	B	・生徒は熱心に取り組み、肯定的な評価が大半であった。しかしながら、良好な人間関係を築ける力の育成につながったか検証は難しい。	・竹細工については、人権教育の視点からその歴史や背景についての学習を深めていく。	A				
ふるさと教育	ふるさととの「ひと・もの・こと」を生かした教育活動を工夫する	加藤	教育コミュニティ創造ふるさと学習支援事業を確実に実施する						A		
			キャリア講演会の開催	B				A			
			感謝と瞑想のヨーガねらい「自他を受容する体験を通して、良好な人間関係を築ける力を伸長する」	B				A			

平成27年度 学校評価

江津市立江東中学校

評価期間：平成27年4月1日～12月31日

評価項目	領域	中期目標	短期目標	担当	具体的な取組	○評価の観点	教職評価	達成状況	改善策と今後の方針	学校評価委員		
										評価		
				教頭	海岸清掃&藻塩づくり ねらい「地域に貢献し、地域の活性化について考える」	○ねらいを意識して活動に取り組み、地域の活性化について考えることができたか。	B	・熱心に清掃活動に取り組み、地域の活性化についても考えるきっかけになった。	・目に見える形（環境整備）での地域貢献は、生徒の意識改革に役立つことから継続していく。 ・生徒がより主体的に取り組めるよう、地域の方との打合せ段階から参加させる。	A	校区においては、昔は塩田による塩づくりを行っていた。講師となる人もいたので継続してほしい。	
生徒指導・進路指導	豊かな人間性・社会性	豊かな心や感性の育成を図る	明確なねらいを持った教育活動のPDCAをまわす	教務	・行事ごとにねらいを明確にし、職員でふりかえり、改善していく。	○ねらいを明確にした行事を行い、ふりかえりにより改善を図ることができたか。	A	・事後の職員アンケートにより、改善点が明確になった。	・PDCAサイクルが回りつつある。どの行事でも徹底して行うことが必要である。	A		
			豊かな情操を培う環境づくりに努める（自然環境の活用）		・掃除の徹底 ・畑の整備、芋の収穫	○清掃指導は徹底できたか。	B	・清掃指導は、師弟同行により、徹底できた ・畑の整備・収穫作業を全校で行うことが難しかった。	・教員の掃除担当区域をより明確にする。 ・畑の整備に生徒が参加できるよう、年間計画に取り組む。	A		
			体験活動を通して、培うべき感覚・資質を育てる	石井	体験活動を道徳の価値への関連づけ（全体計画の改善）を行う。	○全体計画のもと、体験活動（道徳的価値）を重点化できたか。	C	・全体計画の見直しができなかった。	・教育活動の道徳教育の視点からの見直しと道徳の授業の充実を図る。	B		
		人権・同和教育の推進	安心して生活・学習できる居場所としての集団づくりを行う	生徒指導	・教育相談を学期ごとに行い、生徒理解に努める。 ・SCを活用した人間関係づくりの授業を行う。	○人権アンケートやアンケートQ-Uの回答から、気になる生徒を把握するなど、いじめ防止に取り組むことができたか。	A	・人権アンケート結果を全職員で回覧し、迅速に対応できた。 ・アンケートQUを、学級集団づくり、個別支援に役立てることができた。	・教育相談や個人懇談などで、アンケートQUの結果を踏まえた個別支援を行っていく。	A		
					湊	・小中合同で人権集会を実施する。	○小中合同の人権集会は居場所のある集団づくりに役立ったか。	B	・事前学習で中学生自らの課題について考えたことで、小中合同集会では、小学生にアドヴァイスすることができた。	・準備段階から、小中の担当者だけでなく、管理職も含めた組織的な運営を行うことで、内容を充実させる。	A	
				職員研修を通して、人権・同和教育への資質の向上を図る	湊	・冊子「しまねがめざす人権教育」を活用した校内研修を行う。 ・県人権教育研究大会での発表にむけたプレ発表会を行う。 ・小中合同研修会の開催。 ・竹細工教室、健康教室へ参加する。	○校内研修会や小中合同研修会により、人権・同和教育への意識が高まり、理解を深めることができたか。	B	・校内研修会、小中合同職員研修会をそれぞれ実施した。 ・竹細工の作業所に担当者以外の職員が行くことができた。	・人権・同和教育について、教職員の資質を高めるために、担当者を中心に市教委他とも連携し、もっと地域について理解を深めていく。	A	
		自尊感情の育成を図る	保護者や地域への啓発に努める	生徒指導	・人権講演会を実施し、保護者・地域に案内する。 ・生徒・来校者対象に、「人権・同和教育コーナー」を校内に設置	○講演会への案内や人権コーナーは、保護者・地域への啓発に役立ったか。	C	・人権集会の案内は行ったが、人権講演会は、地域まで案内を広げることができなかった。 ・今年より新たに「人権・同和教育コーナー」を設置した。紹介が十分ではなく、保護者や来校者へのアピールが十分とは言えなかった。	・人権・同和教育関連の便りを出すなど、保護者にむけて、具体的なアピールをしていく。	B	保護者だけでなく、回覧等で地域の住民にも周知し、共に学ばべき。地域コミュニティの会合に参加して地域のことを知ってほしい。	
					・全校で、生徒相互に「よいとこ評価活動」を企画し実施する。 ・生徒会の取組への肯定的な評価活動を行う。	生徒相互のよいとこ評価活動を行うことで、自尊感情を高めることができたか。	C	・全校による生徒相互の評価活動を実施することができなかった。	・年度当初の生徒会運営計画に盛り込んでいく。 ・各学年の特活で評価活動の場面を設ける。	B		
					・行事、活動計画のねらいに自尊感情の視点を盛り込む。	生徒会への取組への肯定的な評価活動を行い、自尊感情を高めることができたか。	B	・生徒のアイディアに肯定的な評価及び助言をすることで意欲的で自主的な活動ができた。 ・自尊感情も少しは高まった。	・行事の振り返りなどで、相互評価や自己評価を行う。また、相互評価で出てきた肯定的な評価を、本人に伝え、自尊感情を高めることにつなげていきたい。	A		
		特別支援教育	特別支援教育	特別支援教育の推進を図る	職員研修を通じて特別支援教育への理解を深め、効果的な支援を行う	・外部講師を招き、校内の研修を行う。（2学期）	校内研修会により、特別支援教育への理解を深めることができたか。	A	・通常学級における支援の具体事例等について研修し、理解を深めることができた。実践できるようにすることが課題。	・支援の方法やポイントを明確にし、各教科担当が、それぞれの授業づくりの中で具体的な支援を意識し、実践していく。	A	
					専門機関や保護者等との連携を図る	・校内支援委員会を定期的に関し、それぞれの生徒の実態に応じた支援につなげられるようにする。	定期的に校内委員会を開催し、専門機関や保護者との連携を深め、具体的な支援につなげたか。	B	・専門機関との連携は深まった。個別に課題を設定して取り組んだ生徒もいたため、今後、教員各自が授業等で支援を行わなければならない。	・専門機関との連携を継続しつつ、校内でできる支援体制（各教科担当、個別支援等）を整えていく。そのために生徒の実態把握や情報交換を定期的に行う。	B	今後ともしっかりと把握してほしい。

平成27年度 学校評価

江津市立江東中学校

評価期間：平成27年4月1日～12月31日

評価項目	領域	中期目標	短期目標	担当	具体的な取組	○評価の観点	教職評価	達成状況	改善策と今後の方針	学校評価委員	
										評価	
組織運営・保護者や地域との連携	信頼される開かれた学校づくり	学校機能の充実を図る	校務分掌における責任を明確にし、組織的な協働体制を確立する	教頭	・各分掌部会の開催 ・企画会の効果的な運営	分掌部会、企画会を月1回開催し、効果的な運営を行ったか。	B	・分掌部会はあまり開けなかったが、協力体制はあった。	・月ごとの部会開催日を設定する。 ・企画会の開催を定例化する。	A	
					校務分掌における責任を果たし、協働体制の構築に貢献したか。	B	・生徒の学力育成を図りたいと思い、定期テスト前の個別指導や放課後学習会に取り組んだが、協働体制で進めることは出来なかった。	・学年主任が、リーダーシップを取る。 ・学期毎に取組状況をふりかえる機会を持つ。	A	成果が出るのは時間がかかるが、取組はできている。	
			教職員の学校経営参画意識を高める	・自己目標評価システムによる役割の明確化 ・一人1改善 ・学校評価委員会の開催。	学校運営への参画意識は高まったか。	B	・担当の校務分掌では1改善を意識して行うことができた。	・中間面接を確実に実施し、自己目標評価システムを機能させる。 ・業務を慣習化せず、PDCAサイクルで改善を図る習慣を身に付ける。	A		
			教育活動に資する内外の環境を整備、活用する	・環境整備、環境美化への取組	年2回教職員作業日を実施したか。	B	・備品点検を行い、廃棄すべき物品を廃棄し、美化に努めた。	・年2回の職員作業を実施する。 ・職員室の整理整頓を行う。	A	庭木の剪定を手伝いたい。	
	家庭・地域・関係団体との連携を図る	開かれた学校として、説明責任を果たし、連携を深める	教頭	・学校通信やホームページの更新により、教育活動の情報を公開する	年1回地域への学校通信を発行したか。 月1回ホームページを更新したか。	C	・学校通信は発行されていたが、ホームページの更新には全く関わらなかった。	・各学年よりHP作成に関わる担当者を選出し、仕事を分担し、更新を確実にを行う。	B		
				・メディア講演会、学校保健員会等の実施 ・学校行事への案内	メディア講演会、学校保健委員会を実施し、保護者の学校教育・家庭教育への意識を高めることができたか。	B	・学校保健委員会は、子どもの自尊感情を育む意識を高めるために役立つ会であったが、参加者が少なかった。 ・メディア接触が学習や生活習慣に明らかかな悪影響を及ぼしている生徒が、1年男子に目立ち、啓発が必要。	・学校保健委員会については、PTA役員の協力を得ながら参加の働きかけを行う。事後は、保健だより等を通して保護者に会の内容を知らせ、意識を高めてもらうよう努める。	A		